第21講 「鴻門之会」

一　文章を読んで、次の**問**に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

【「鴻門之会（こうもんのかい）」　ここまでのあらすじ】
秦の始皇帝が死ぬと、各地で反乱が起きる。秦軍を破り、函谷関（かんこくかん）に着いた項王（＝項羽（こうう）。家は、代々楚の国の将軍を務める。秦軍と戦う反乱軍の最高司令官）が、沛公（＝劉邦（りゅうほう）。後に項羽を破り、漢の初代皇帝となる）に先を越されたことを知る。さらに、項王は、沛公の部下である曹無傷（そうむしょう）から「沛公は関中（かんちゅう）の王になろうとしている」と告げられ、激怒して、沛公の軍を攻撃しようとする。それを知った沛公が、数人の家来とともに項王のもとを訪れ、言い訳をしたところ、項王は怒りを鎮めた。
その日、項王は沛公を引き留め、酒宴を行う。范増（はんぞう）（＝項王の部下）は、今、この機会に沛公を殺すように項王に目配せをするが、項王は応じなかった。そこで、范増は項荘（こうそう）（＝項王のいとこ）を呼び、剣の舞にかこつけて沛公を殺すように命じ、項荘は剣舞を実行する。しかし、項伯（こうはく）（＝項王の叔父。かつて、沛公の部下の張良に助けられたことがあり、恩がある）が、項荘が沛公の命を狙っていることを察し、項伯も剣を抜いて舞い、自分の体で沛公をかばって守ったので、項荘は沛公を攻撃する機会をみつけられない。そんな中、酒宴に同席している張良（ちょうりょう）（＝沛公の部下）が酒宴を抜け出した。

［a］於レ是張良至リ（注）二軍門一ニ、見ル二樊噲（はんくわい）（注）一ヲ。樊噲曰ハク、「今日之事、①何如ト。」良曰ハク、「甚ダ（注）急ナリ。今者項荘抜キテレ剣ヲ舞フ。其ノ意常ニ在ル二沛公ニ一也ト。」噲曰ハク、「此レ（注）迫レリ矣。②臣請フ、入リテ与レ之同ジクセンレ命（めい）ヲ。」噲

即帯剣擁盾入軍門。交戟之衛士、欲止不内。樊噲側其盾以撞。衛士仆地。噲遂入、披帷西嚮立、瞋目視項王。頭髪上指、目眥尽裂。項王按剣而跽曰、「客③何為者。」張良曰、「沛公之参乗樊噲者也。」項王曰、「壮士。④賜之〔A〕巵酒〔B〕。」則与斗巵酒。噲拝謝起、立而飲之。項王曰、「賜之彘肩。」則与一生彘肩。樊噲⑤覆其盾〔A〕於地、〔B〕加彘肩上、抜剣切而啗之。項王曰、「壮士。能復飲乎。」樊噲曰、「⑥臣死且不避。巵酒安足辞。⑦夫秦王有虎狼之心。殺人如不能挙、刑人如恐不勝。天下皆叛之。懐王与諸将約曰、『先破秦入咸陽者、王之。』今沛公、先破秦入咸陽、毫毛⑧不敢有所近。封閉宮室、還軍覇上、以待大王来。故遣将守[X]関者、備他盗出入与非常也。労苦而功高如此、⑨未有封侯之賞。而聴細説、欲誅有功之人。此亡秦之続耳。窃為大王不取也。」項王

未ダレ有ラ二以テ応フル一。曰ハク、「坐セヨト。」樊噲従ヒテレ良ニ坐ス。坐スルコト⑩須臾ニシテ、沛公起チテ如レ厠ゆかはやニ。因リテ招キテ二樊噲ヲ一出ヅ。

沛公f已出ヅ。⑪項王使三都尉とゐ(注)陳平ちんぺい(注)ヲシテ召二サ沛公ヲ一。沛公曰ハク、「今者出ヅルニ、⑫未レ辞セ(注)也。為レスコト之ヲ奈何いかんト。」樊噲曰ハク、「大行たいかうハ不レ顧ミ(注)二細謹さいきん(注)ヲ一、大礼たいれいハ不レ辞セ二小譲(注)ヲ一。如今いまハ人方まさニ為リ二刀俎たうそ(注)一、我ハ為リ二魚肉(注)一。⑬何ゾ辞スルヲ為サント。」於レ是遂ニ去ル。

（『史記』）

注

軍門…陣営の門。　樊噲…人名。沛公の部下。　急…切迫している。　迫…危ない。　擁…だき抱える。

交戟之衛士…戟〔＝ほこの一種〕を交差して守る番兵。　側…傾ける。　仆…倒れる。　披…手でかき分ける。

帷…張り巡らした幕。　嚮…向く。　上指…逆立つ。　目眥…めじり。　按…手でおさえる。

跽…立膝をついて身構える。　客…ここでは「お前」の意味。　参乗…護衛のために同乗する者。　壮士…勇壮な男。

卮酒…大杯についだ酒。　斗卮酒…一斗（約二リットル）入りの大杯についだ酒。　彘肩…豚の肩の肉。

啗…むさぼり食う。　懐王…項王らによって仮に立てられた天子。　咸陽…秦の都。　毫毛…少しも。

近…自分のものにする。　覇上…地名。沛公が陣を敷いた場所。　故…わざわざ。　関…函谷関。

封侯之賞…諸侯に取り立てる恩賞。　細説…つまらない者の言うこと。　続…二の舞。　不取…賛成しない。

都尉…軍の部隊長。　陳平…人名。　辞…別れの挨拶をする。　顧…気にとめる。　細謹…小さな謹み。

小譲…小さな譲り合い。　刀俎…包丁とまな板。　魚肉…魚と肉。

問一　傍線部a～fの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

a＝　　　b＝

c＝　　　d＝

e＝　　　f＝

問二　傍線部①・③・⑦・⑩の読みを、それぞれ引用の「ト」以外の送り仮名も含めてすべて平仮名で答え、現代語訳もせよ。

①＝〈読み〉

〈訳〉

③＝〈読み〉

〈訳〉

⑦＝〈読み〉

〈訳〉

⑩＝〈読み〉

〈訳〉

問三　傍線部④・⑤中の〔A〕・〔B〕の箇所に最も適切な送り仮名をそれぞれ入れて、書き下し文にせよ。

④＝

⑤＝

問四　傍線部⑪・⑫を書き下し文にせよ。

⑪＝

⑫＝

問五　空欄 X の部分に入る最も適切な送り仮名を片仮名で書け。なお、X の直後「シ」は、過去の助動詞「き」の連体形である。

問六　傍線部②・⑥・⑧・⑨・⑬をそれぞれ現代語訳せよ。

②＝

⑥＝

⑧＝

⑨＝

⑬＝

第21講　確認問題

① 「ここにおいて」と読むものを次の中から一つ選べ。

ア　是以　イ　以是　ウ　於是　エ　是於

② 副詞「窃」と同じ読みの漢字を、次の中から一つ選べ。

ア　盗　イ　私　ウ　遂　エ　已　オ　卒

③ 「幸無使王烈聞之」は、「幸(ねが)はくは王烈をして之を聞かしむること無かれ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　幸　無二　使　王　烈　聞一レ　之
イ　幸　無下　使二　王　烈一　聞上　之
ウ　幸　無レ　使二　王　烈　聞一　之
エ　幸　無レ　使二　王　烈一　聞レ　之
オ　幸　無レ　使二　王　烈　聞一レ　之

〈Memo〉

第21講　解答

一

問一　a　ここにおいて　b　ついに　c　とに　d　のみ　e　ひそかに　f　すでに

問二　①　**〈読み〉**　いかん　**〈訳〉**　どうであるか（どんな様子か）

③　**〈読み〉**　なんするものぞ　**〈訳〉**　何者だ

⑦　**〈読み〉**　それ　**〈訳〉**　そもそも

⑩　**〈読み〉**　しゅゆにして　**〈訳〉**　まもなく

問三　④　之に卮酒を賜へ（と）。

⑤　其の盾を地に覆せ、

問四　⑪　項王都尉陳平をして沛公を召さしむ。

⑫　未だ辞せざるなり。

問五　ラシメ

問六　②　どうか私に、宴席に入り沛公と生死をともにさせてください。

⑥　私は死でさえ避けない。まして、大杯についだ酒などどうして辞退しようか、いや、しない。

⑧　決して自分のものにすることがなかった。

⑨　まだ諸侯に取り立てる恩賞もない。

⑬　どうして別れの挨拶をしようか、いや、しない。

〈現代語訳〉

一

そこで張良は陣営の門へ行き、樊噲を見た。樊噲が言うには、「今日の会見は、どのようだ」と。張良が言うには、「とても切迫している。今、項荘が剣を抜いて舞を舞っている。その狙いは常に沛公にあるのだ（＝沛公を殺そうとしている）」と。樊噲が言うには、「これは危ない。どうか私に、宴席に入り沛公と生死をともにさせてください」と。樊噲はすぐに剣を腰につけて盾をだき抱えて陣営の門から入ろうとした。戟を交差して守る番兵が、中に入れないように留めようとした。樊噲はその盾を傾けてそして（それで）突いた。番兵は地面に倒れた。樊噲はついに中に入り、張り巡らした幕を手でかき分けて西を向いて立ち、怒って目をむいて項王を見た。頭髪は逆立ち、めじりはすっかり裂けていた。項王は剣を手でおさえて立膝をついて身構えて言うには、「お前は何者だ」と。張良が言うには、「沛公の護衛のために同乗する者で樊噲という者です」と。項王が言うには、「勇壮な男である。このものに大杯についだ酒を差し上げよ」と。そこで一斗入りの大杯についだ酒を与えた。樊噲は拝礼して立ち、立ったままこれを飲んだ。項王が言うには、「このものに豚の肩の肉を差し上げよ」と。そこで一つの（塊の）生の豚の肩の肉を与えた。樊噲は持っていた盾を地面に伏せて、豚の肩の肉を上に載せて剣を抜いて切ってこれをむさぼり食べた。項王が言うには、「勇壮な男である。また飲むことができるか」と。樊噲が言うには、「私は死でさえ避けない。まして、大杯についだ酒などどうして辞退しようか、いや、しない。そもそも秦王には虎狼の心（＝残忍な心）がありました。人を殺すことが数えることができないほどで、人を罰することも数えられないほどで（処刑しきれないことを）恐れるほどでした。（だから）天下の人々はみんな秦王に背きました。懐王は諸将と約束をして言うには、『先に秦を破って咸陽に入った者は、その地の王としよう』と。今、沛公が、先に秦を破り咸陽に入りましたが、少しも決して自分のものにすることがなかった。宮室を閉鎖し、軍を引いた場所の覇上に返して、大王様（＝項王）がいらっしゃるのを待っていました。わざわざ将兵を派遣して函谷関を守らせたのは、他の盗賊が出入りするのと非常事態とに備えたのです。苦労がとてもひどく功績が高いことはこのようですが、まだ諸侯に取り立てる恩賞もありません。しかし（項王は）つまらない者の言うことを聴いて、功績がある人を殺そうとお考えです。これは滅亡した秦の二の舞なだけです。個人的に大王様には賛成はしません」と。項王はまだ何も答えない。「座れ」と言った。樊噲は張良に従って座った。座ってまもなく、

沛公は立って厠に行った。ついでに樊噲を招いて出て行った。
　沛公はすでに（項王のもとを）出た。項王は軍の部隊長の陳平に沛公を呼ばせた。沛公が言うには、「今出てきたが、まだ別れの挨拶をしていない。（もう一度酒宴の席に戻って）これをするのは、どうだろうか」と。樊噲が言うには、「大きな行い（をするに）は小さな謹みなど気にとめず、大きな礼（を行うに）は小さな譲り合いなど問題にしない。今、人〔＝項王側〕は包丁とまな板で、私〔＝沛公側〕は魚と肉です。どうして別れの挨拶をしようか、いや、しない」と。そこで、そのまま立ち去った。

第21講　確認問題　解答

〔解説〕

① ア「是以」は「ここをもって」、イ「以是」は「これをもって」、ウ「於是」は「ここにおいて」と読む。よって、正解はウ。エはひっかけの選択肢。ちなみに意味は、ア「だから・こういうわけで」、イ「これで」、ウ「そこで」。

② 副詞「窃」は「ひそかに」と読む。他に「ひそかに」と読む漢字は、「私」と「陰」。よって、正解はイ。

③ 「聞かしむる」という読み方から、「使」は使役の助動詞「しム」とわかる。「幸はくは王烈をして」と読むので、「幸」は返り点は不要。次に「王」を読むためには、「幸」の下の「無」と「使」には返り点が必要なので、アは不適。次に「王烈をして之を」と読むことから、「王」と「烈」には返り点が不要。したがって、イとエも不適。「之を聞かしむる」と読むので、「聞」は一字下の「之」から戻るため、「聞」にはレ点をつける。「聞」から「使」に二字以上戻るため、「聞」には一レ点、「使」には二点をつける。よって、正解はオ。意味は、「どうか王烈にこれを聞かせることはするな」。

〔解答〕

①　ウ　②　イ　③　オ